

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名： 文学と芸術
 部会長名： 菱川 英一
 作成者名： 菱川 英一

概要（2000字）

平成 21（2009）年度の教養原論科目のうち、「文学と芸術」教育部会に属する科目の教育について報告する。

「文学と芸術」教育部会には、人文学研究科 8 名、国際文化学研究科 6 名、人間発達環境学研究科 10 名、計 24 名の教員が所属し、前期 12 コマ（夜間 1）（人文学研究科－3 名、国際文化学研究科－6 名、人間発達環境学研究科－2 名）・後期 12 コマ（人文学研究科－4 名、国際文化学研究科－6 名、人間発達環境学研究科－2 名）の共通教育授業を担当した。

その内訳は、下記の通りである。

（夜間主コースは、文学と芸術を隔年開講し、当該年度は文学科目を開講）

前期	伝統芸術－3 コマ	芸術と文化－3 コマ	日本の文学－1 コマ（夜間）
	言語と文化－1 コマ	日本の文学－3 コマ	世界の文学－1 コマ
後期	伝統芸術－3 コマ	芸術と文化－2 コマ	
	言語と文化－2 コマ	日本の文学－3 コマ	世界の文学－2 コマ

三研究科から共通教育担当者が出ることにより、加えて受講人数制限により、旧教養部時代、大学教育センター時代に比して、文学・芸術系の授業科目のバラエティーが豊かになり、受講人数も適切化され、かつての、授業によっては教室に入りきれず、立ち見が出るといった、劣悪な教育環境は改善されたといえる。文学や芸術の教養は、人間らしい生活を送るための心の糧として、かけがえのないものである。望蜀といえるかも知れないが、可能ならば、さらに担当者を増やし、百名を超える講義授業ばかりでなく、少人数学生を対象とする演習形式授業などができれば、一層の教育効果が望めるのではなからうか。さらに美術館・博物館見学や祭祀行事への参加などフィールド型授業ができるような環境が整えば、一層の教育効果が見込めよう。受講生数が百名や二百名を数える講義になると、受講生全体の理解度を常に把握することは極めて難しく、ここに改善すべき点があるように思われる。

授業内容については、シラバスや各授業担当者からのアンケートから見て、各担当者はそれぞれの専門分野をふまえ、学生が興味を持ちやすいテーマを設定し、また最先端の研究成果を織り交ぜながらの授業を工夫しているといえる。視聴覚機器の利用などは、教員アンケートによれば、殆どの教員が積極的に活用しており、例えば、DVD、CD、パワーポイント等を使う教員は多い。さらに、言語表現の自然さを挙手によりその場で判断させる（その挙手数の多寡を説明する）などというインタラクティブな課題指示を行う教員もあり、必ずしも機器に頼らずとも工夫次第で学生に授業に対する積極的な興味を呼び起こすことも可能である。さらに、教員によっては、学外実習（美術館見学など）を実施し、事前に着眼点やキーワードなども提供し、現場での見学の導入に活用するなどの方法を取り入れる事例もある。

本年度は部会総会を二度開催した。年度途中の総会は科目の設定に伴う実務的なものであったが、年度末には本年度の教育をふまえて次年度にどう引継いでゆくかが話し合われた。退職などの教員異動に伴う補充教員の手配、TA の配置、次年度の担当教員の決定など、種々の調整業務を円滑に実施するために、各種の連絡を少し前倒しにすると、業務プロセスの大体の予定を前もって示すなどの改善策が検討された。

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況) になっている。

根拠資料

全教員のシラバスおよび教員アンケート

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況) になっている。

根拠資料

教員アンケート

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況) なされている。

根拠資料

教員アンケート

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況) 文学と芸術教育部会に属する科目は受講者数が多く、講義形式の授業しか行われていない。その制限の中で、インタラクティブな課題指示や多様な情報機器・視聴覚機器を利用した授業は多くの教員が行っており、TAも活用されている。ただしTA予算は不足し、要求数の半分以下しか配当されていない。

根拠資料

全教員のシラバスおよび教員アンケート

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況) 組織的には行われていない。しかし、少なからぬ教員が数回の小テストを実施、課題レポートを課すなど、各自の努力・工夫による配慮をしている。

根拠資料
教員アンケート

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。
(観点に係る状況) 適切に実施されている。

根拠資料
教員アンケート

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 上がっている。

根拠資料
教員アンケート

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況) 適切に行われている。どの教員も学生からの質問に誠実に回答している。オフィスアワーや連絡先については、シラバスに記している。

根拠資料
シラバスおよび教員アンケート